

1.技 術	2.2 下水、排水処理に関する調査（再利用を含む）
2.事 業 名	2.2.13 DASH に向けた候補下水処理場の探索業務(H29)
3.キーワード	省エネルギー、下水処理、膜処理
4.目的	本事業は、超省エネ型の新規下水処理システムの開発について、国交省の GAIA プロジェクトとして北九州市立大が実施するのにあたり、支援を行うものである。
5.内容、成果	<p>核となる超省エネ型技術は、FO 膜により下水の有機成分を濃縮したのち嫌気処理するもので、これにより完全自立型の下水処理場の構築を目指す。平成 28 年度造水センターでは、新システムの適用が可能な下水処理場の調査支援を行い、全国の下水処理場約 1,800 施設を対象として検討した結果、本技術の対象と成り得る臨海部に立地する処理施設は、下水処理量ベースで全施設の約 30%になることを明らかにした。</p> <p>平成 29 年度では、本システムの実機としての導入目標時期を今からおよそ 100 年後(2030 年頃)と想定し、その時期に施設の耐用年数(50 年)を迎えると思われる 1980 年代以前に処理を開始した処理場を抽出した。その結果、臨海部に立地する下水処理場で 1980 年代以前に処理を開始した施設数は、683 施設中 239 施設と約 35%であり、全国の 1,800 施設中では約 13%であった。また本年度は、ラボスケール試験のためのミニモジュールの製作検討を行った。</p>
6.参照	本事業は、北九州市立大学からの委託事業